

第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画の成果・効果の検証について(アンケート調査)

「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画(平成18年度～平成22年度)」(以下「第2次5か年計画」という)において整備した施設について、施設整備による成果・効果等について各国立大学法人等に対しアンケート調査を実施。

1. 調査の概要

(1) 調査内容

① 国立大学法人等の長を対象とした調査

・第2次5か年計画における大学全体としての施設整備の成果・効果や施設の現状等について調査

② 第2次5か年計画において整備した施設を利用している教員等を対象とした調査

・施設整備による教育研究等への効果や対象施設以外の施設の現状について、施設の区分別(教育研究施設、附属図書館、学生支援施設、附属病院)に調査

・調査対象の施設は、原則として第2次5か年計画の期間中に整備した全ての施設(耐震対策やアスベスト対策のみの事業等は除く。)を対象とし、棟単位で調査

(2) 実施期間 平成21年12月24日から平成22年2月2日まで

2. 調査結果

(1) 国立大学法人等の長を対象とした調査

・対象は、国立大学法人(86)、大学共同利用機関法人(4)、国立高等専門学校機構(1)で全法人から回答

・回答内容は別紙1参照

(2) 第2次5か年計画において整備した施設を利用している教員等を対象とした調査

・回答内容は別紙2参照

【教育研究施設】

・対象施設 526棟 ・抽出人数 5859人、回答数 3534人 (回答率 60%)

【附属図書館】

・対象施設 29棟 ・抽出人数 319人、回答数 218人(回答率 68%)

【学生支援施設】

・対象施設 63棟 ・抽出人数 601人、回答数 390人(回答率 65%)

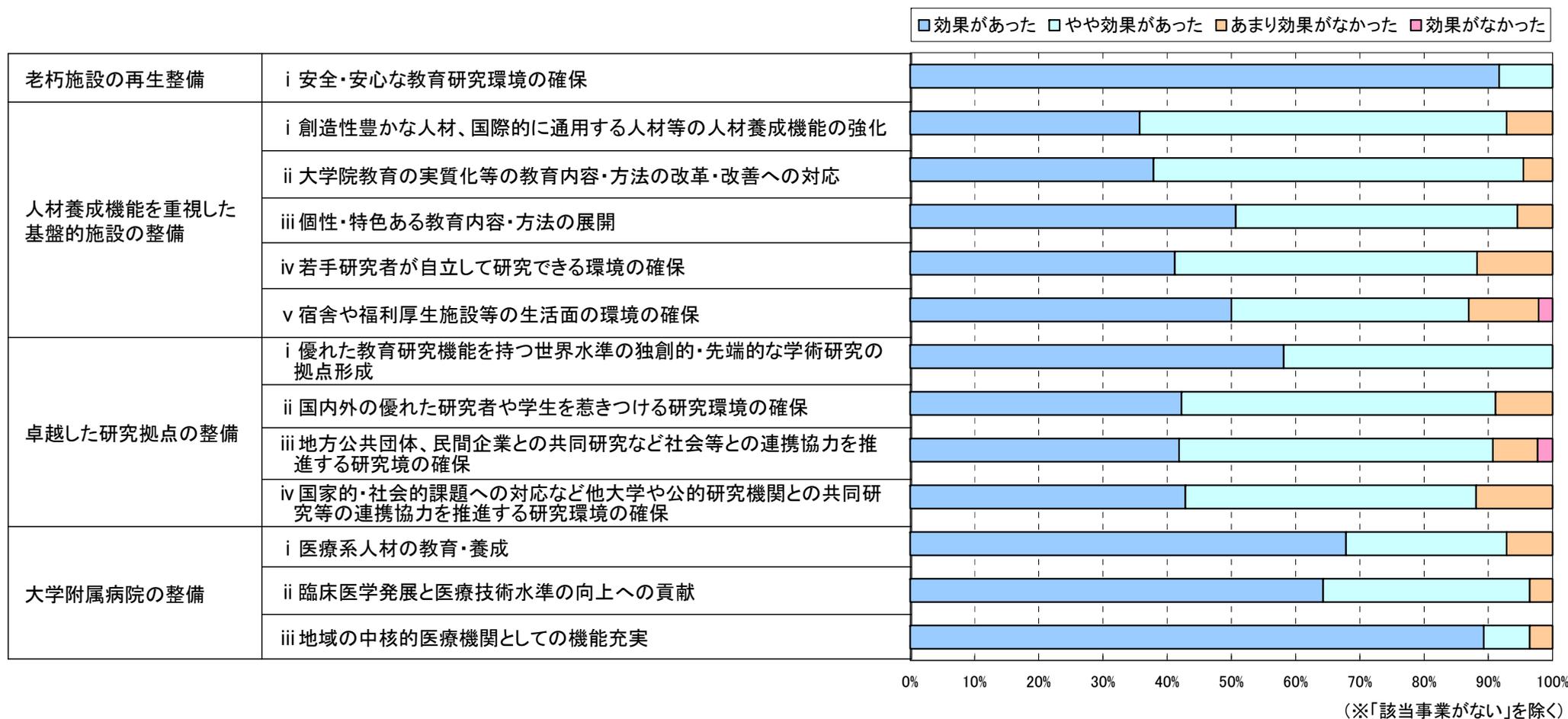
【附属病院】

・対象施設 29棟 ・抽出人数 427人、回答数 268人(回答率 63%)

1. 第2次5か年計画の期間中に整備した施設による教育研究等への効果について（選択式）

全設問において、「効果があった」又は「やや効果があった」との回答が約9割であり、第2次5か年計画による施設整備により教育研究等へ一定の効果が現れていると考えられる。

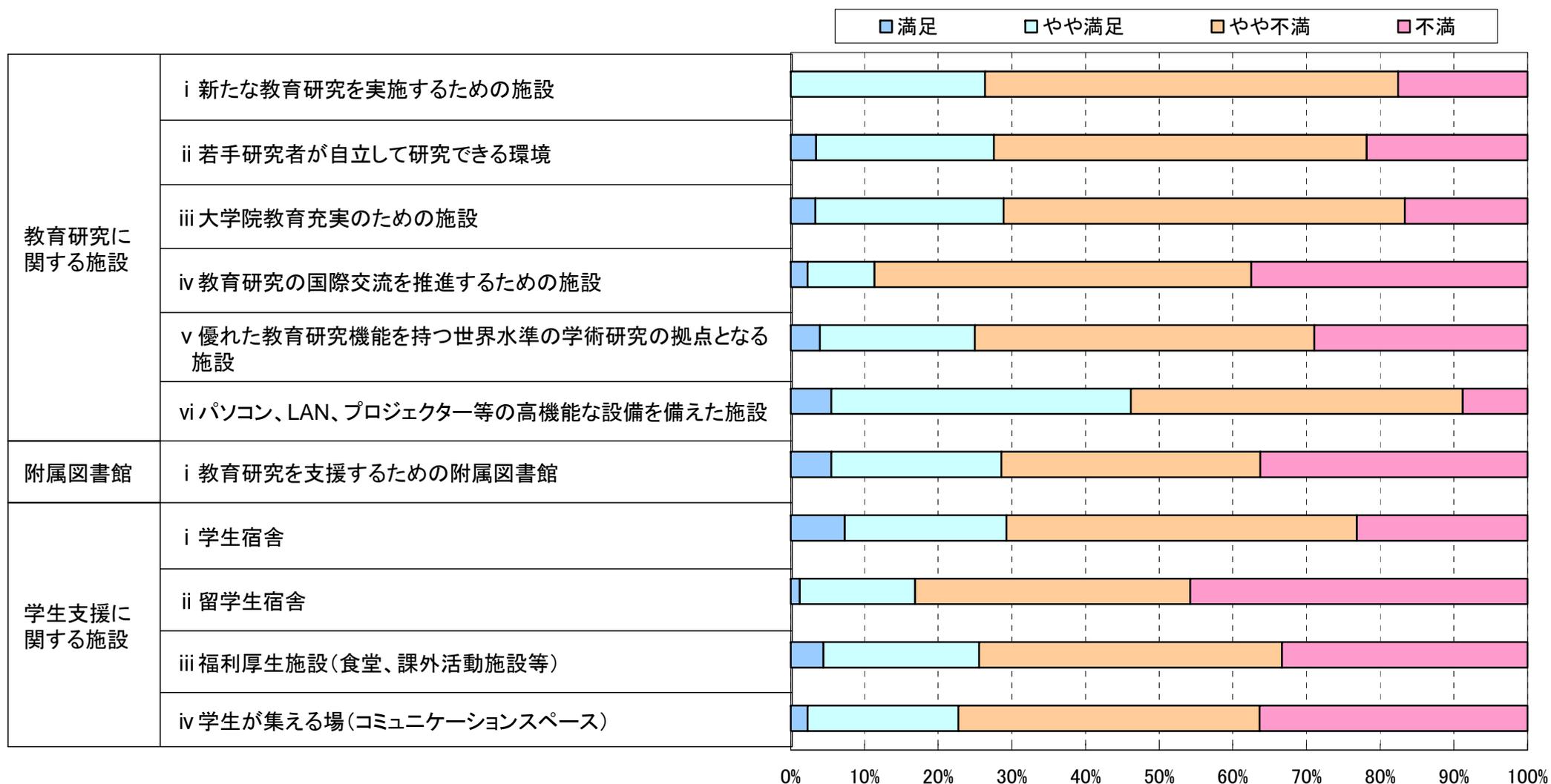
特に、「安全・安心な教育研究環境の確保」や「地域の中核的医療機関としての機能充実」については、「効果があった」との回答が約9割となっており、整備の効果が現れてきている。



2. 現在保有している施設の現状について（選択式）

①保有面積（量）の満足度

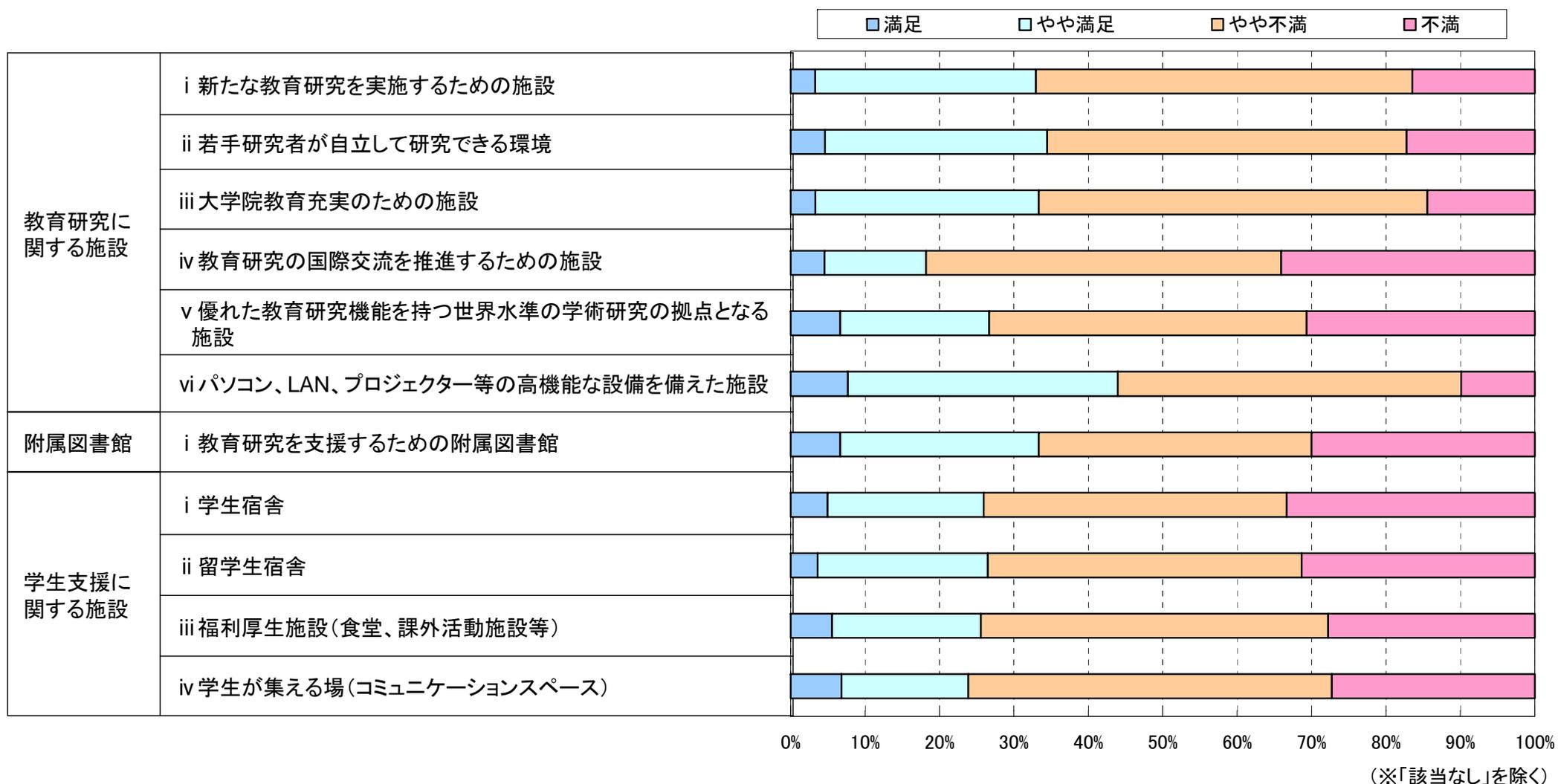
現在保有している施設の面積（量）に関する満足度については、「不満」又は「やや不満」との回答が約7割であり、特に「教育研究の国際交流を推進するための施設」や「留学生宿舎」については、8割を超えており満足度が低い。



（※「該当なし」を除く）

②保有施設の機能（質）の満足度

現在保有している施設の機能(質)に関する満足度については、「不満」又は「やや不満」との回答が約7割であり、特に「教育研究の国際交流を推進するための施設」については、8割を超えており満足度が低い。

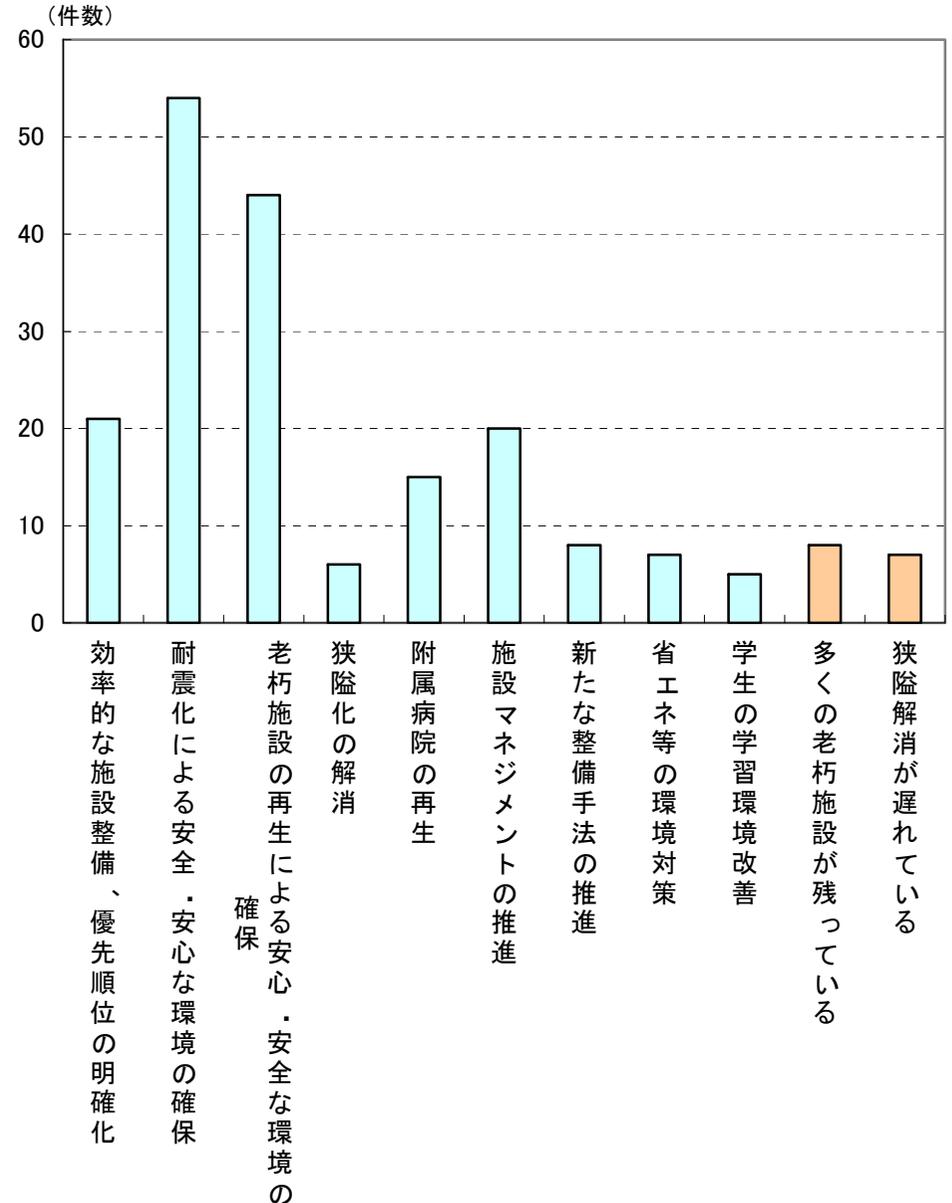


3. 各国立大学法人等における、第2次5か年計画を策定したことの効果・影響（自由記述）

第2次5か年計画を策定したことにより、各大学等においても、安全・安心な環境が確保されたこと、優先順位が明確になり計画的な整備が可能となったことや、施設マネジメントの推進や新たな整備手法の活用意識が高まったなどの回答が多い。一方、残っている老朽施設の解消や狭隘化の解消を引き続き求める回答もあった。

【回答の例】

- ・老朽施設の再生が最重要課題であったことにより、学内での老朽施設改修の整備優先順位確定の目安になり、計画的に順次改修を実施することが出来た。
- ・老朽施設の再生や耐震補強等により、安全・安心な施設が整備された。また、既存施設のスペース再配分により、若手研究者等が自立して研究できる環境が整備され、活性化していると考えている。
- ・文部科学省の施設整備施策の明確化と重点的支援により整備が推進されると共に、学内においても経営的視点に立った施設マネジメントの重要性・必要性に対する理解が深まった。
- ・学内においても国の施策に沿った整備方針について理解が図られたことにより具体的な施設整備の優先度に対する認識が図られ、整備の優先度が低い事業については自己資金の活用等新たな整備手法を模索して整備を行うようになった。
- ・老朽建物や大学施設・設備の機能改善が進められ、安全安心は着実に向上した実感がある。このことにより、学生の教育・研究に集中できる環境が整い始めていると思う。
- ・附属病院の再開発整備も最優先課題として明確にできたことで、病棟・診療棟の整備に着手でき、特定機能病院としてより高度先進医療を行える環境を提供し、災害拠点病院として地域に貢献できる環境が整うことは非常に重要である。
- ・第2次5か年計画の策定により、重点整備事業が絞り込まれ事業展開の方針が明確となり、全国一律の施設整備が推進されたことにより大きな効果が得られた。しかしその反面、大学の特色、独自性が打ち消されるというマイナス面も顕在したと思われる。

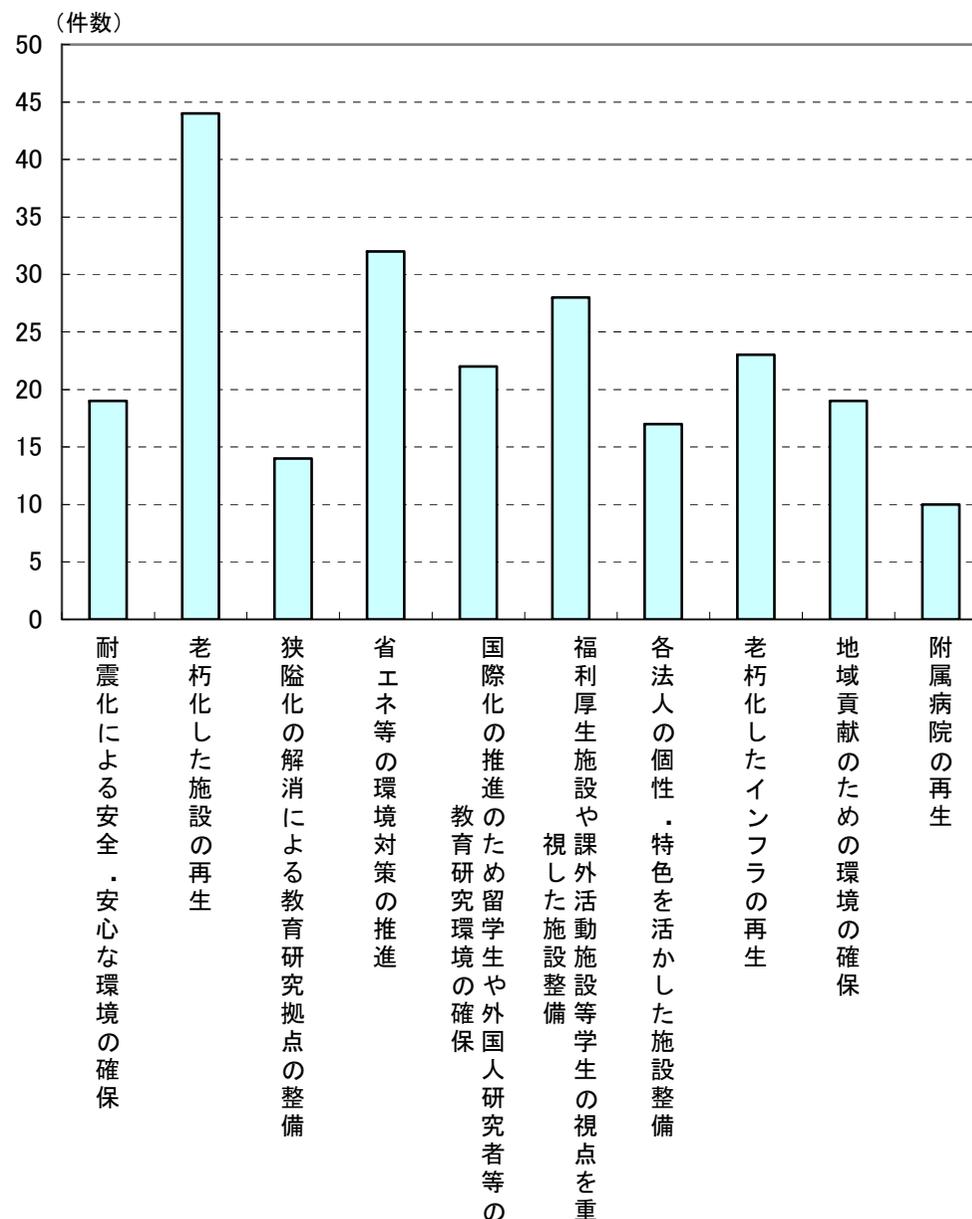


4. ポスト5か年計画の盛り込むべき観点等について（自由記述）

ポスト5か年計画に盛り込むべき観点として、引き続き老朽施設の再生整備を行うとともに、学生の視点を重視した施設整備や国際化の観点から留学生や外国人研究者を受け入れる環境の整備、省エネルギー対策等の環境に配慮した整備を行うことが必要との回答が多い。また、各大学等の個性や特色、地域性に応じ多様なニーズに対応できるよう求める回答もあった。

【回答の例】

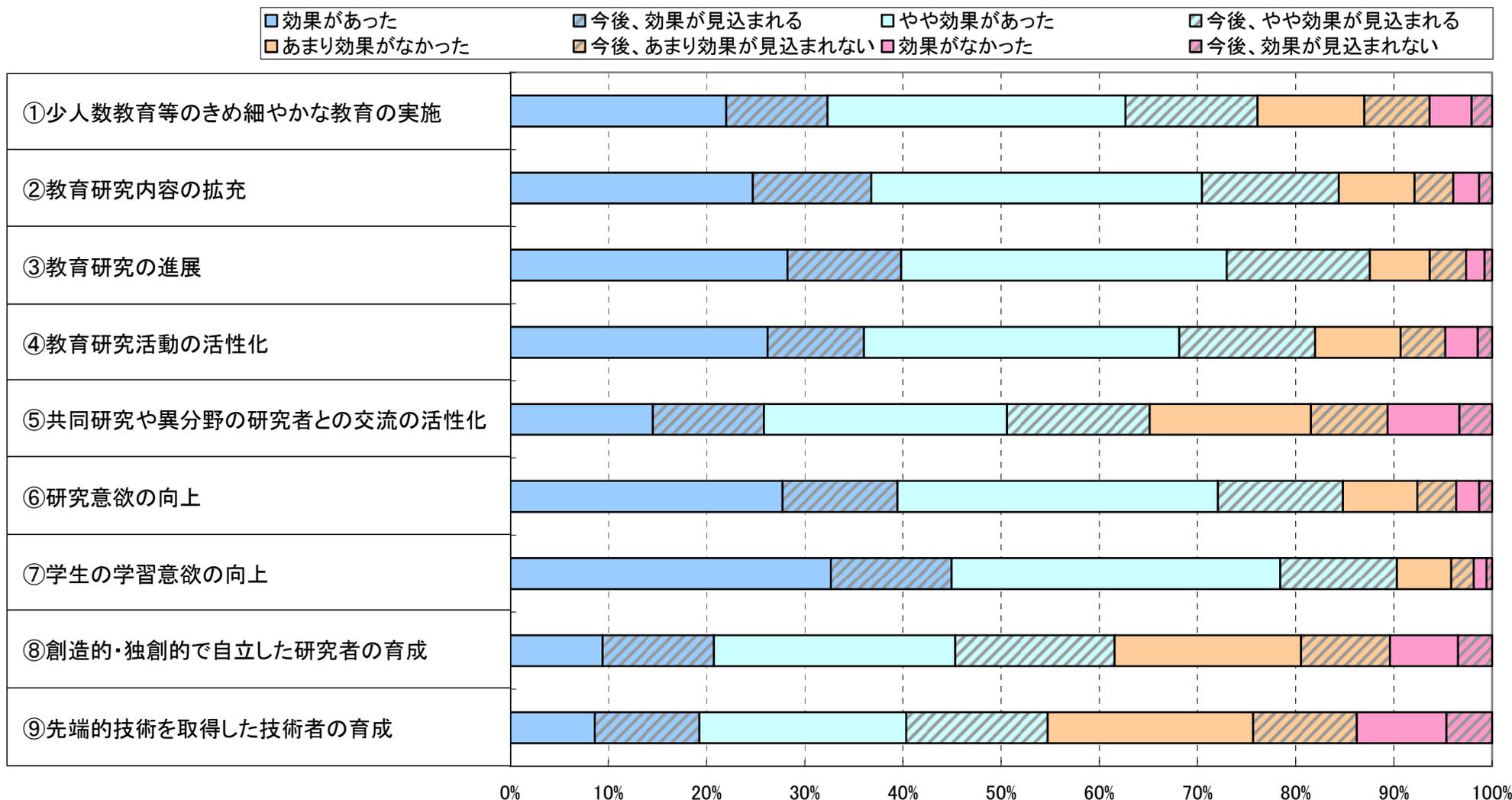
- ・安全安心、老朽改修、卓越した研究拠点の計画的重点的な整備や、CO2削減に配慮し、資源、エネルギーの有効活用に努め、機能的効率的キャンパス創りを引き続き推進することは重要である。
- ・大学施設が安全安心な施設に再生されることは引き続き必要であるが、加えて、学生にとって魅力のあるキャンパス及び学生支援施設が充実していることが重要と考える。
- ・学生教職員の福利厚生に関する部分の施設整備が遅れている。大学の基礎力として教育力や研究力が求められる事は当然だが、学生（留学生を含む）や研究者にとって魅力ある生活環境を整備し、「学びたいキャンパス・研究をしたいキャンパス」であることも必要である。特に地方大学では都市圏に比べ立地や地域経済面でのハンディもあり、自助努力だけでは及ばない部分がある。
- ・我が国の経済的発展や国際的役割の進展のために「国際化」の観点からの施策(研究者・留学生受入れ施設等)を希望する。
- ・盛り込むべき観点としては、①経年劣化し老朽化した施設、基幹的設備等の改修整備②各大学の特色ある取組み等に係る施設整備③大学病院関係の施設整備
- ・国立大学法人の施設は単なる建設投資ではなく、将来の我が国を支える根幹となる「人」への投資であることを第一に示して頂きたい。また、キャンパス施設の改善は地球環境の改善に向けて、ソフト面での教育効果とハード面での温暖化ガス削減の両面に対して効果が直結するものであることも重要と考えている。



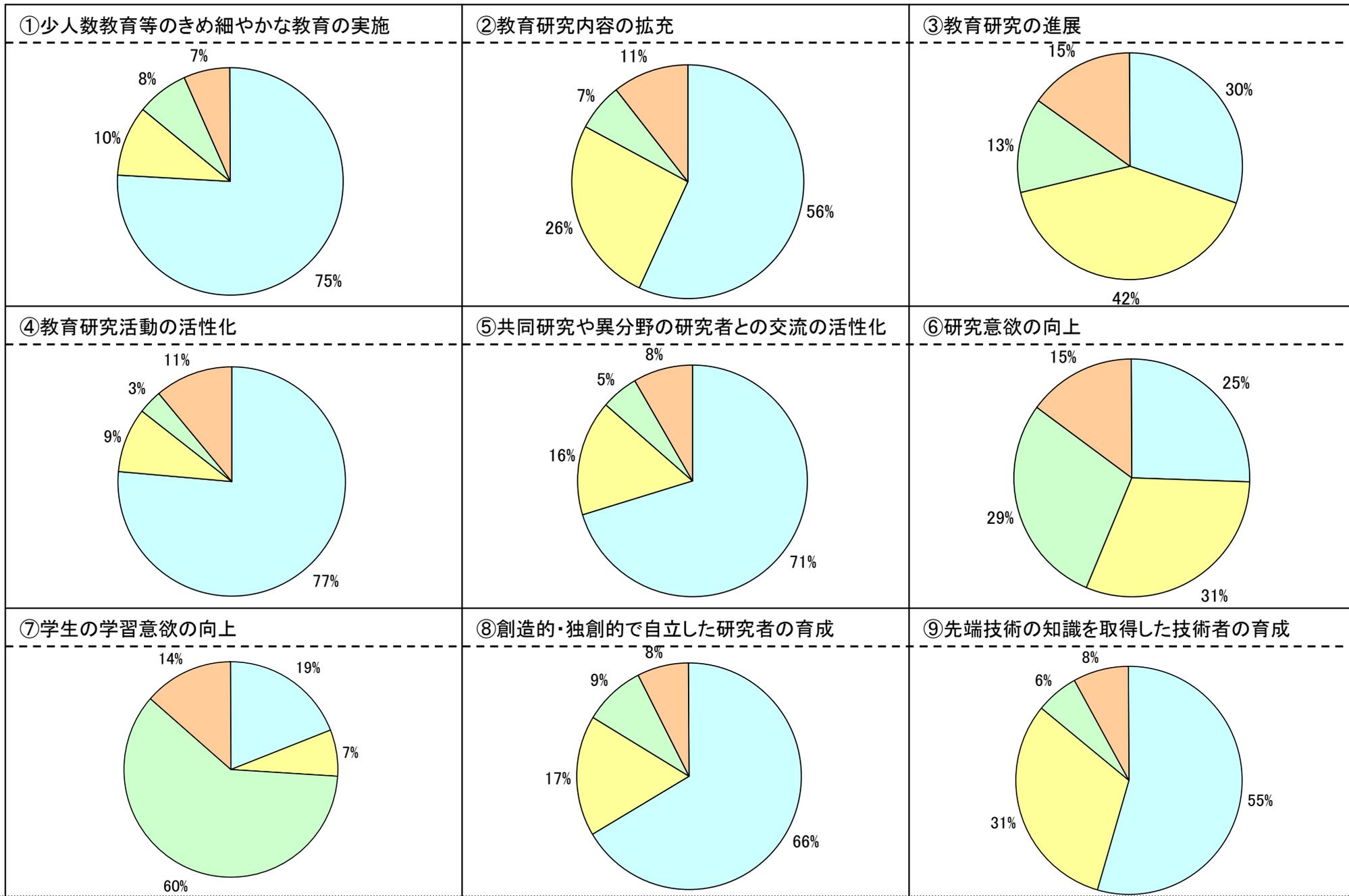
1. 施設整備による教育研究等への効果について（選択式）

教育研究施設

全体的には「効果があった（見込まれる）」又は「やや効果があった（見込まれる）」との回答が多く、教育研究施設の整備により教育研究等へ一定の効果が現れていると考えられる。特に「学生の学習意欲の向上」や「教育研究の進展」等との回答は8割を超えており、整備の効果が現れている。



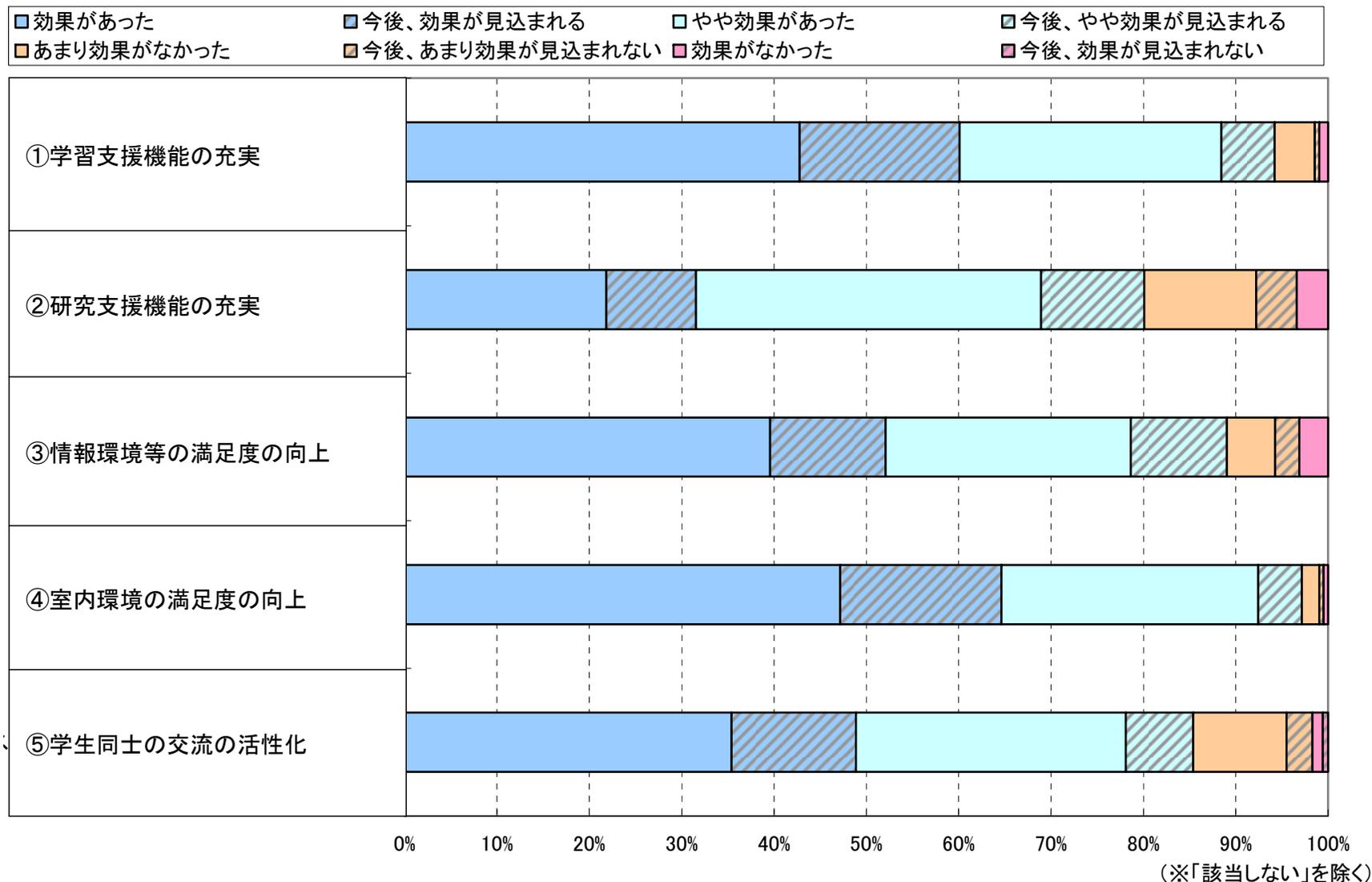
施設整備による教育研究等への効果とその効果が発現するために最も有効であった施設整備内容を集計。
 教育研究等の効果の項目により、有効である施設整備の内容は異なるが、全体的にみると「新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保」との回答が多い。なお、「教育研究の進展」等については「情報環境等の充実による施設の高機能化」が、「学生の学習意欲の向上」等については「空調等の設備更新による施設の機能向上」との回答が多くなっている。



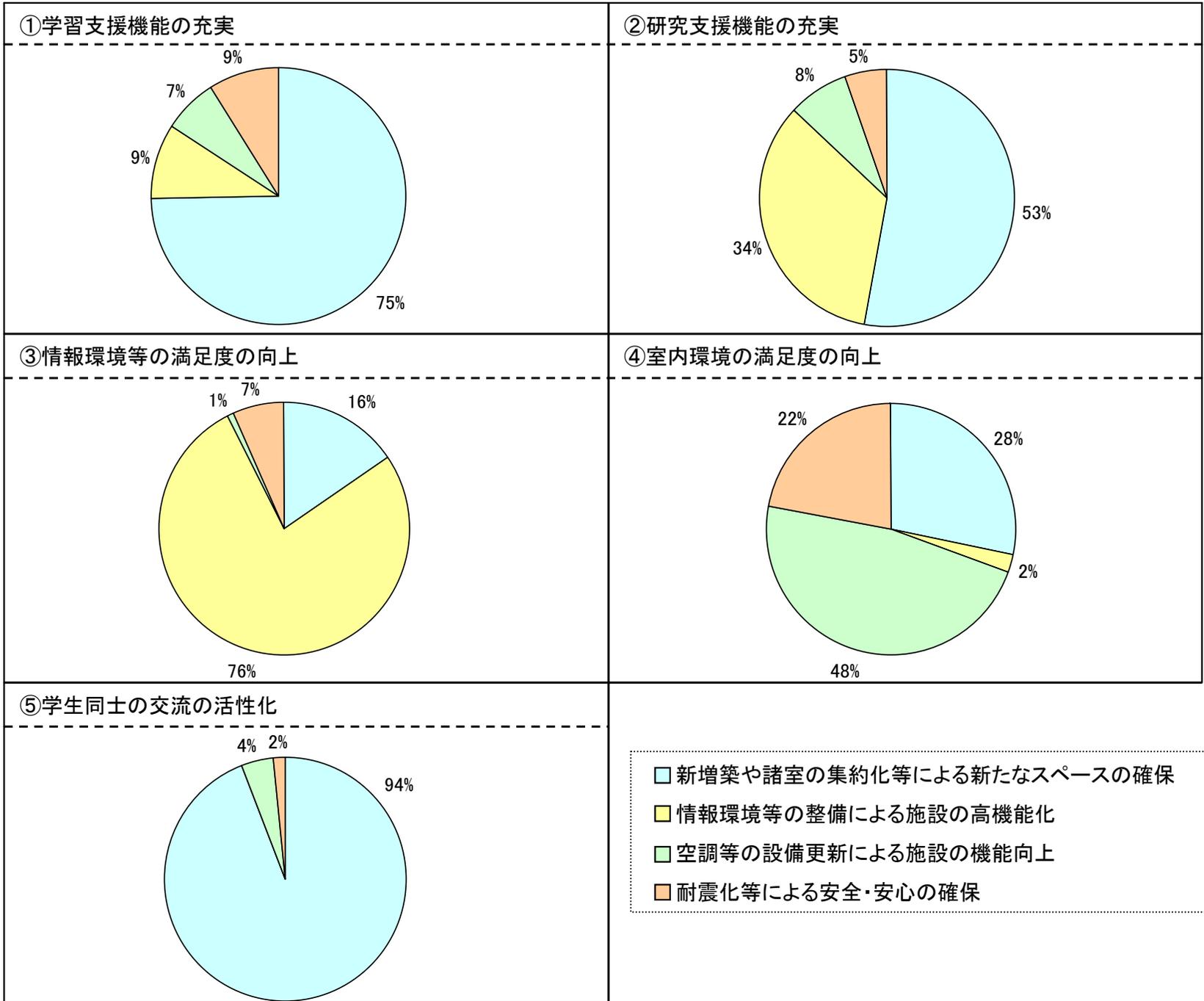
■ 新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保
 ■ 情報環境等の整備による施設の高機能化
 ■ 空調等の設備更新による施設の機能向上
 ■ 耐震化等による安全・安心の確保

附属図書館

全体的には「効果があった(見込まれる)」又は「やや効果があった(見込まれる)」との回答が多く、附属図書館の整備により教育研究等へ一定の効果が現れていると考えられる。特に「室内環境の満足度の向上」や「学習支援機能の充実」との回答は9割を超えており、整備の効果が現れている。

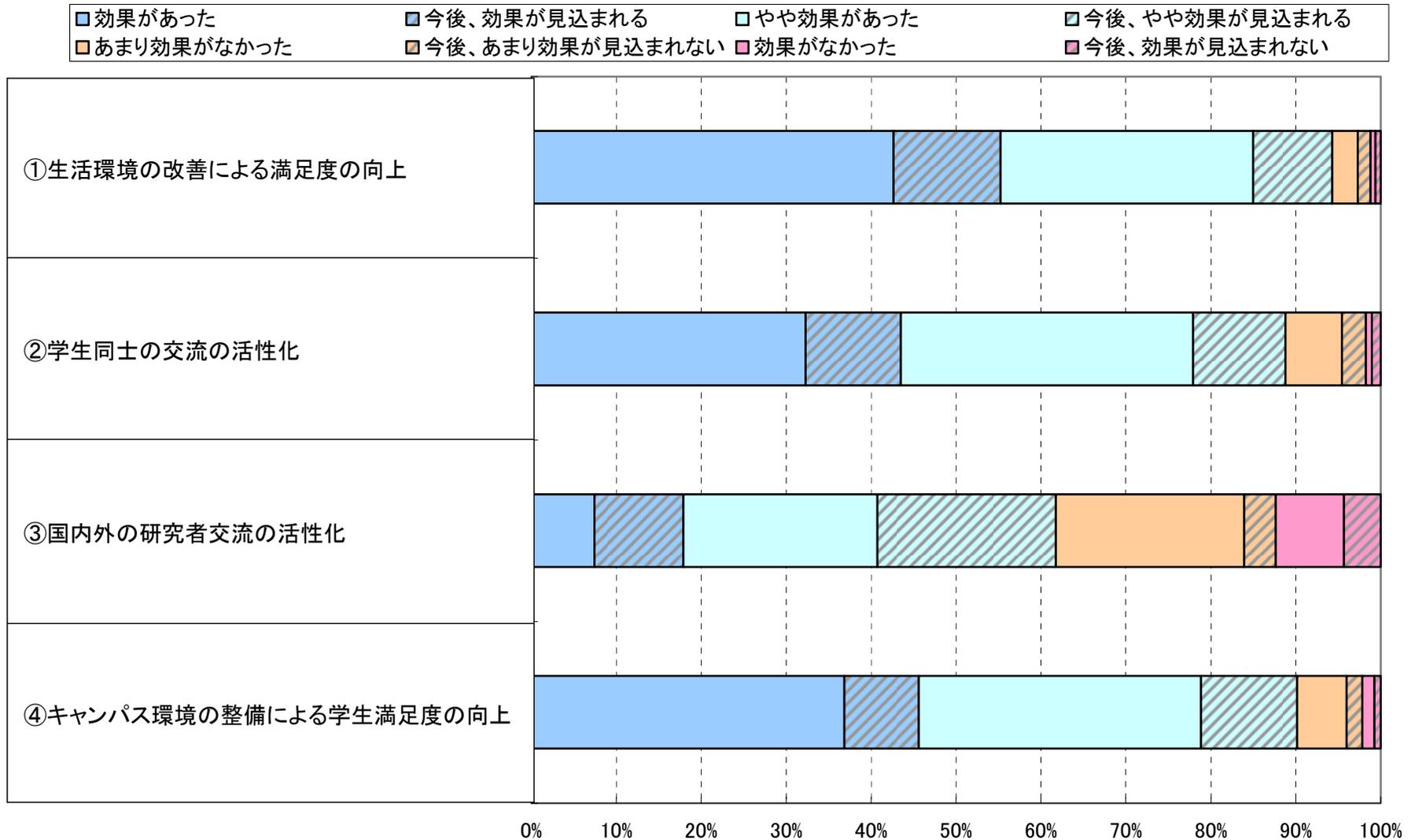


施設整備による教育研究等への効果とその効果が発現するために最も有効であった施設整備内容を集計。
 教育研究等の効果の項目により、有効である施設整備の内容は異なるが、全体的にみると「新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保」との回答が多い。なお、「情報環境等の満足度の向上」等については「情報環境等の充実による施設の高機能化」が、「室内環境の満足度の向上」等については「空調等の設備更新による施設の機能向上」との回答が多くなっている。



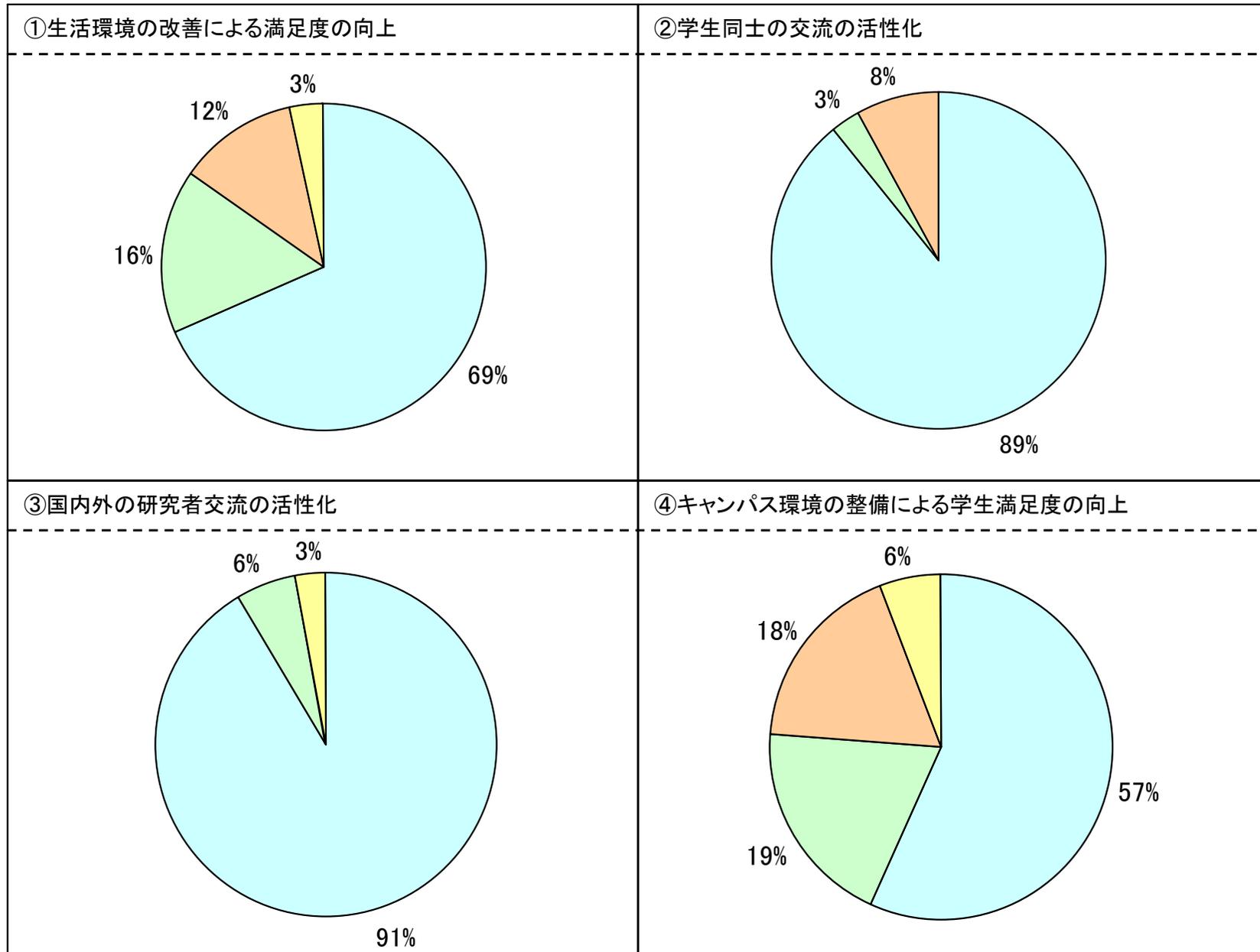
学生支援施設

全体的には「効果があった(見込まれる)」又は「やや効果があった(見込まれる)」との回答が多く、学生支援施設の整備により教育研究等へ一定の効果が現れていると考えられる。特に「生活環境の改善による満足度の向上」や「学生同士の交流の活性化」等の回答は約9割となっており、整備の効果が現れている。一方、「国内外の研究者交流の活性化」については、約6割となっている。



(※「該当しない」を除く)

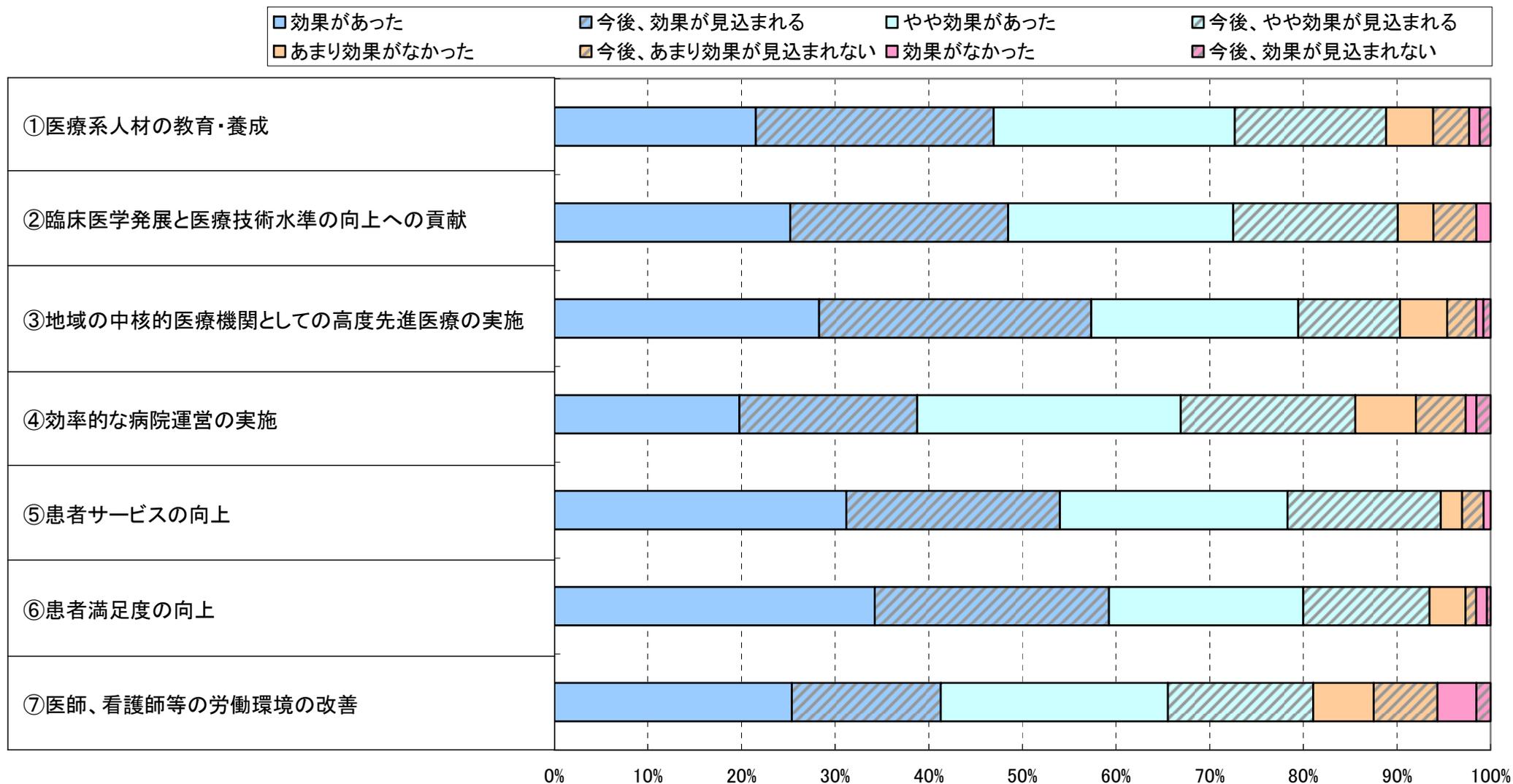
施設整備による教育研究等への効果とその効果が発現するために最も有効であった施設整備内容を集計。
 教育研究等の効果の項目により、有効である施設整備の内容は異なるが、全体的にみると「新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保」との回答が多い。



■ 新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保
 ■ 空調等の設備更新による施設の機能向上
■ 耐震化等による安全・安心の確保
 ■ 情報環境等の整備による施設の高機能化

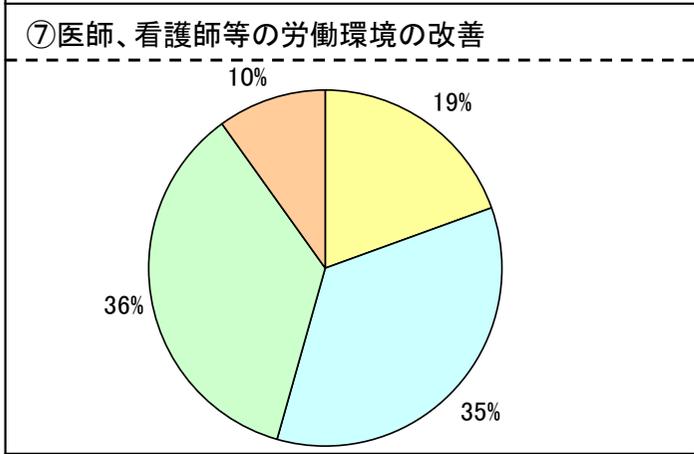
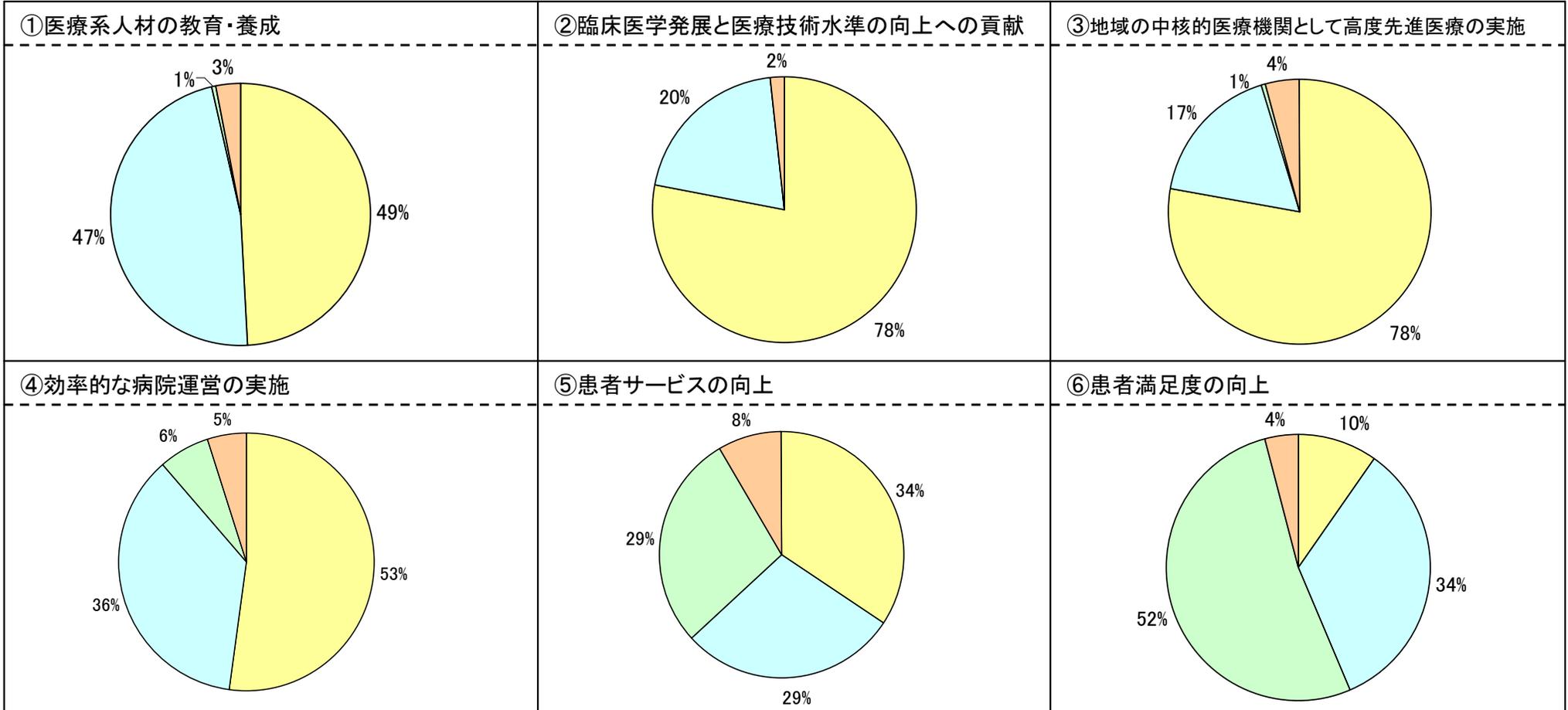
附属病院

全体的には「効果があった(見込まれる)」又は「やや効果があった(見込まれる)」との回答が多く、附属病院の整備により教育・研究・診療へ一定の効果が現れていると考えられる。特に「患者サービスの向上」や「患者満足度の向上」等との回答は9割を超えており、整備の効果が現れている。



(※「該当しない」を除く)

施設整備による教育・研究・診療等への効果とその効果が発現するために最も有効であった施設整備内容を集計。
 教育・研究・診療等の効果の項目により、有効である施設整備の内容は異なるが、全体的にみると「手術室・診療室や情報環境等の整備による施設の高機能化」や「新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保」との回答が多い。なお、「患者満足度の向上」等については「空調等の設備更新による施設の高機能化」との回答が多くなっている。

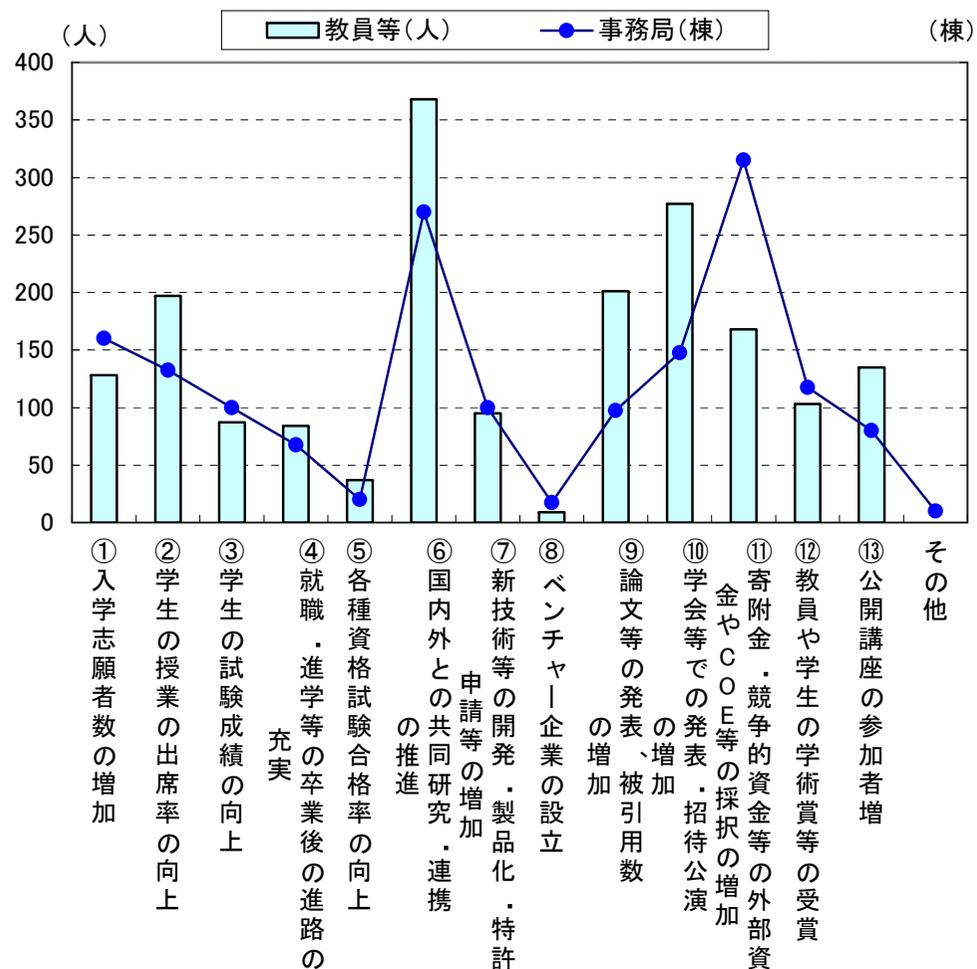


- 手術室・診療室や情報環境等の整備による施設の高機能化
- 新增築や諸室の集約化等による新たなスペースの確保
- 空調等の設備更新による施設の高機能化
- 耐震化等による安全・安心の確保

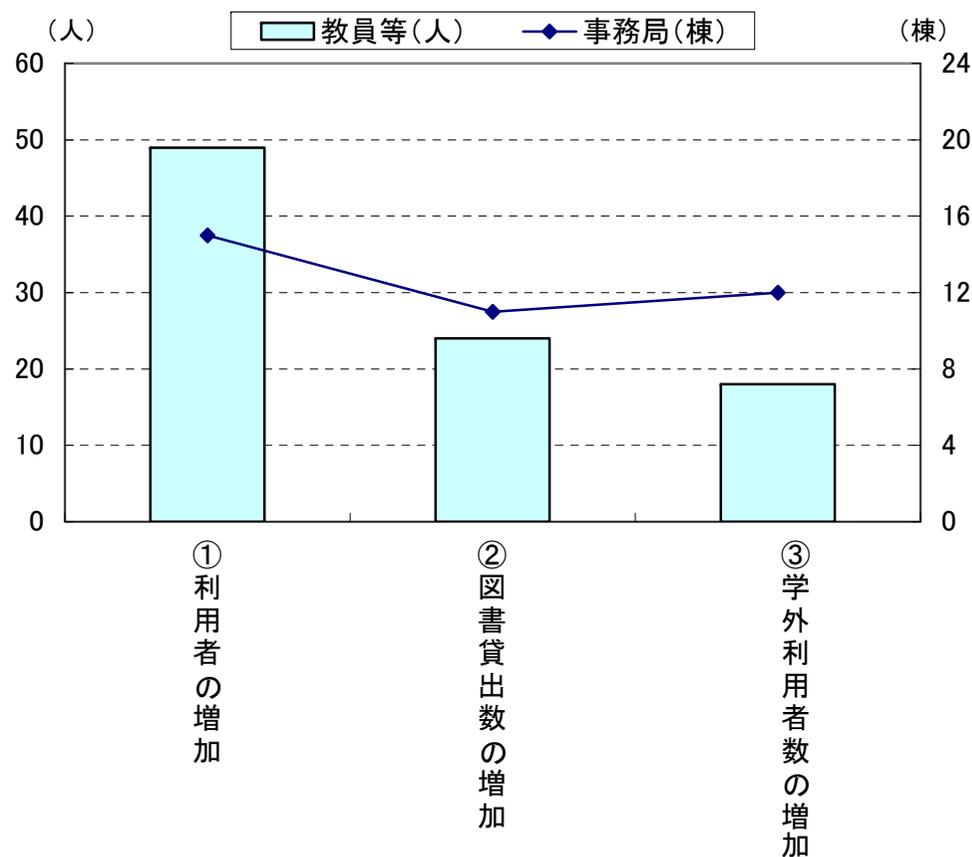
2. 施設整備による教育研究等への効果として定量的に把握されている効果

施設整備による教育研究等への効果として定量的に把握されている効果もあり、特に、教育研究施設では「⑥共同研究・連携の推進」、「⑩学会等での発表・招待講演の増加」、附属図書館では「①利用者の増加」、学生支援施設では「①入居率の向上」、附属病院では、「②患者数の増加」、「⑤病院収入の増加」等について施設整備により一定の効果が現れている。

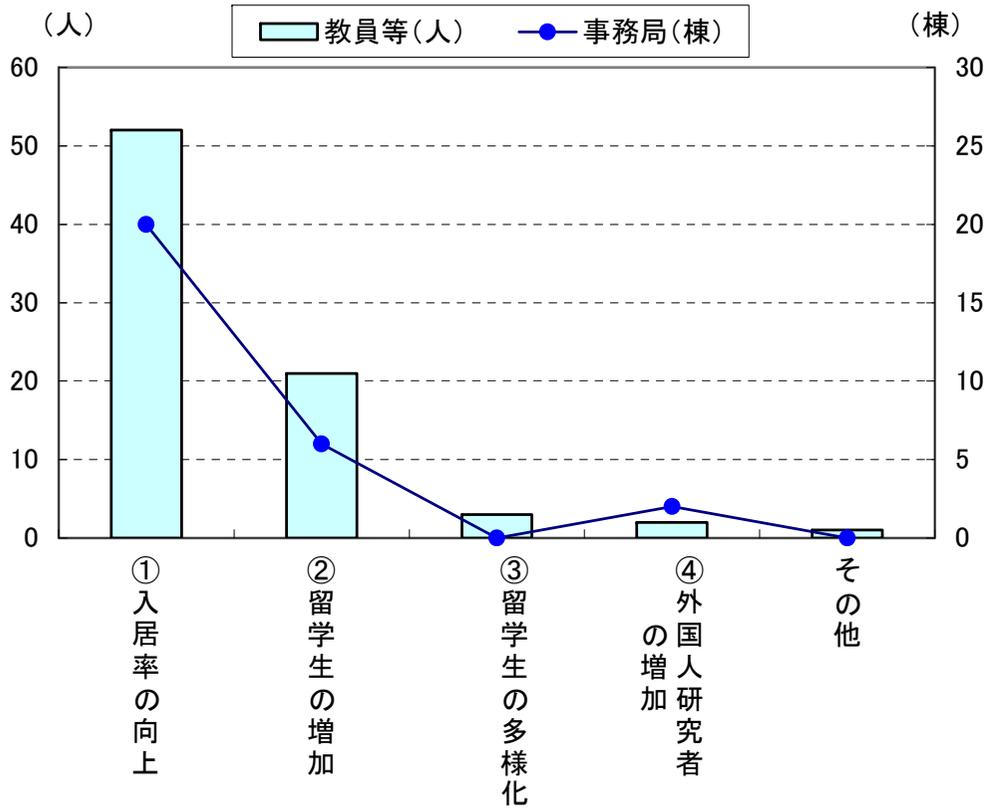
教育研究施設



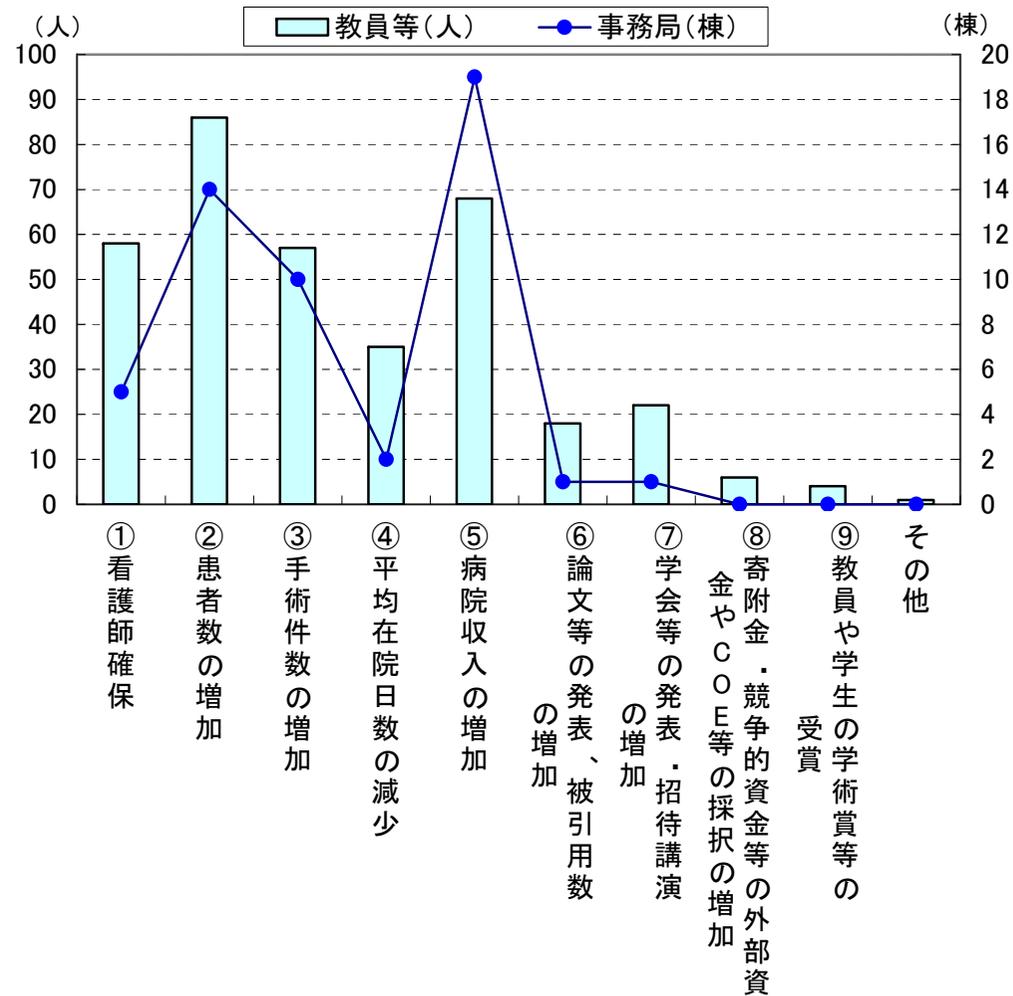
附属図書館



学生支援施設



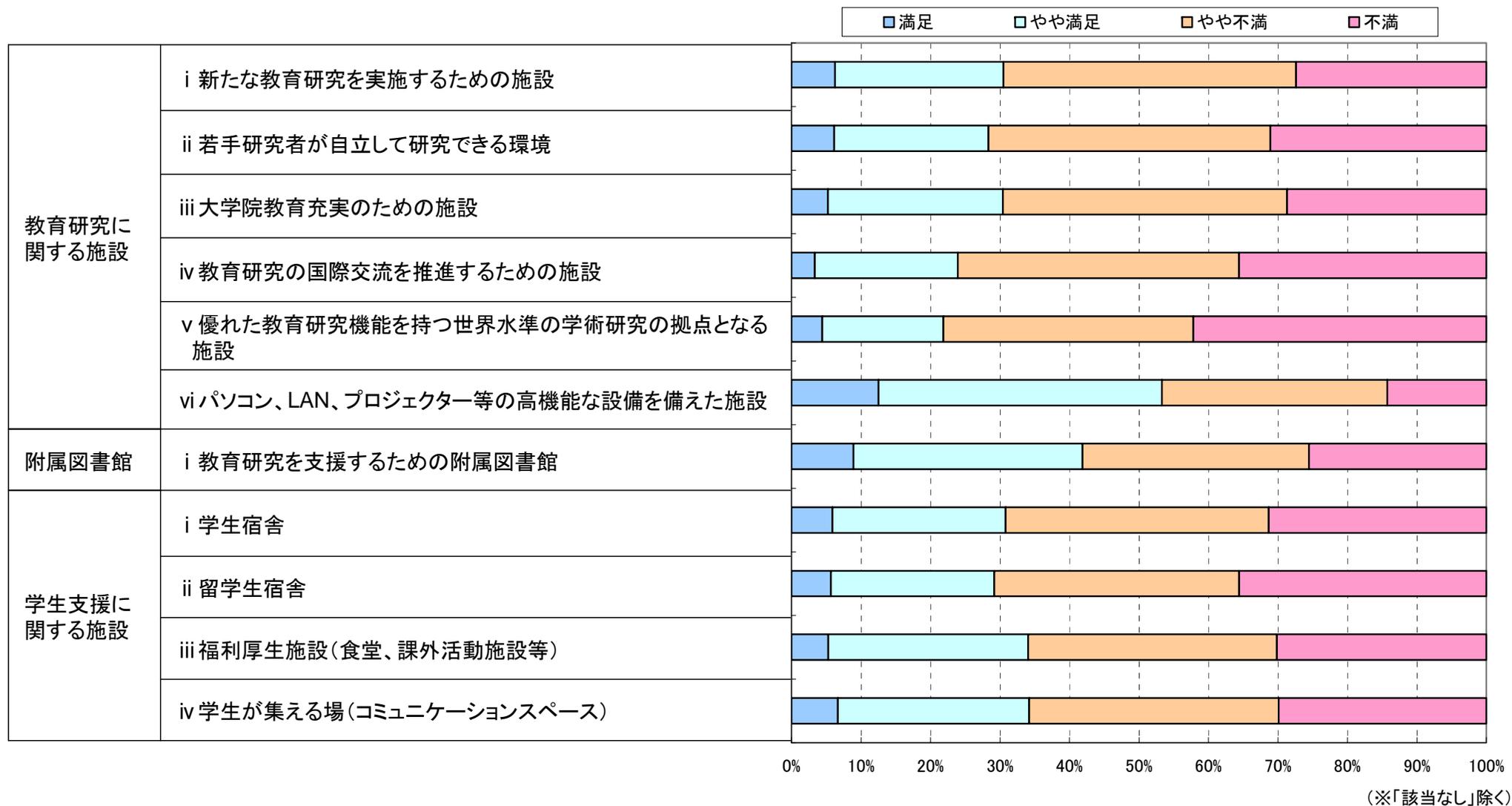
附属病院



3. 現在保有している施設の現状について（選択式）

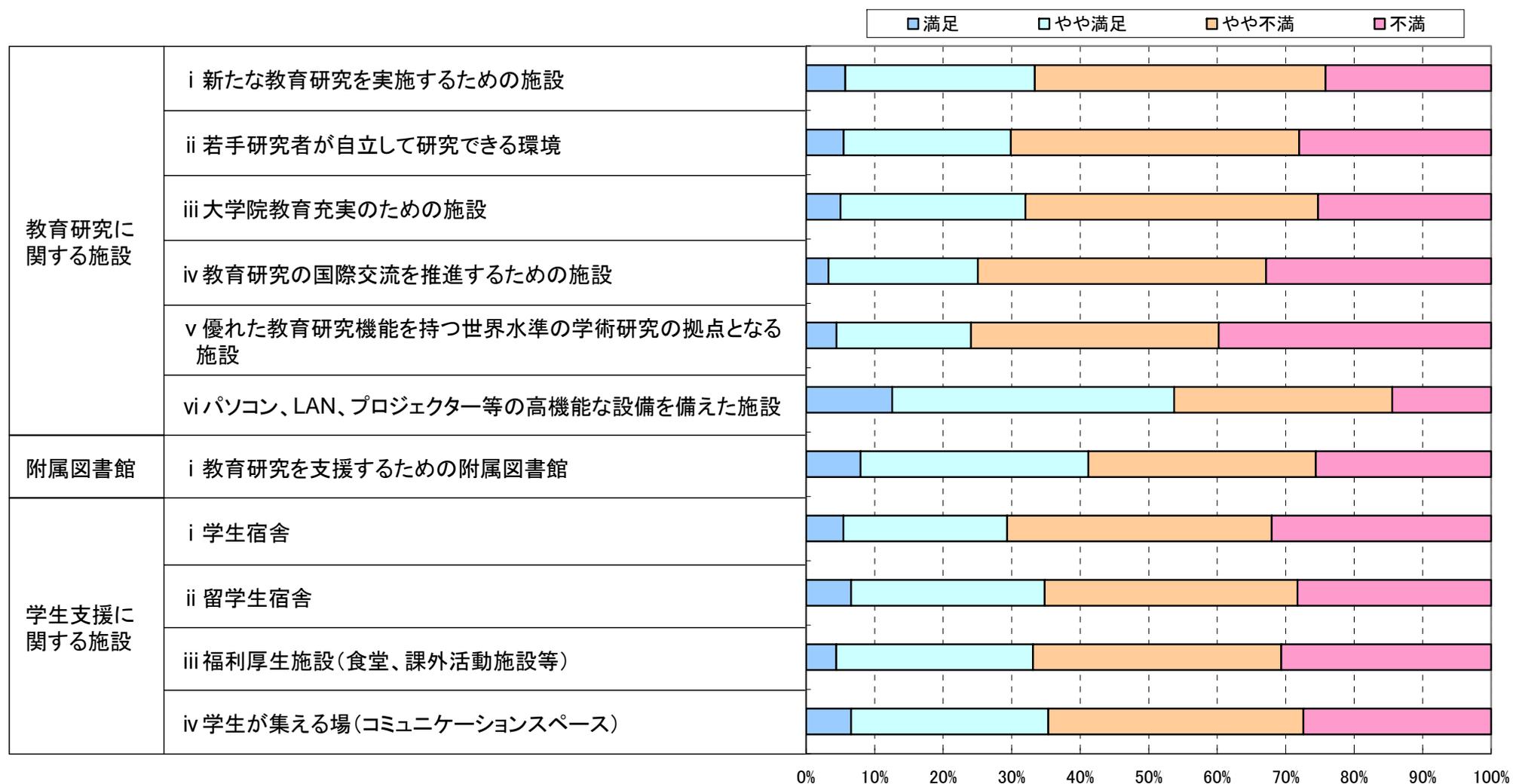
①保有面積（量）の満足度

現在保有している施設の面積（量）に関する満足度については、全体的に「不満」又は「やや不満」との回答が多く、特に「優れた教育研究機能を持つ世界最高水準の学術研究の拠点となる施設」や「教育研究の国際交流を推進するための施設」については、約8割となっており、満足度が低い。



②保有施設の機能（質）の満足度

現在保有している施設の機能（質）に関する満足度については、全体的に「不満」又は「やや不満」との回答が多く、特に「優れた教育研究機能を持つ世界最高水準の学術研究の拠点となる施設」や「教育研究の国際交流を推進するための施設」については、8割弱となっており、満足度が低い。



(※「該当なし」除く)

各大学における学生満足度調査の取り組み事例

九州工業大学

アンケート概要

■目的

- ・平成19年から平成20年にかけて行った総合教育棟の改修(自習スペースの設置や空調の充実、屋外スペースの整備)の効果や今後のキャンパス整備の課題等を把握する。また、I期改修完了時(平成19年)の調査結果と比較して今後の課題を検証する。
- ・戸畑キャンパス全体に対する、学生の満足度・要望を把握し、学生の視点での今後のキャンパス整備の課題、方向性を把握する。

■対象:学部生、大学院生。

■調査期間:平成20年11月～平成21年1月

■回収状況

- ・学部生 在学生数2,511名に対し、1,922名回収。(回収率77%)
- ・大学院生 在学生数737名に対し、484名回収。(回収率66%)

主なアンケート項目

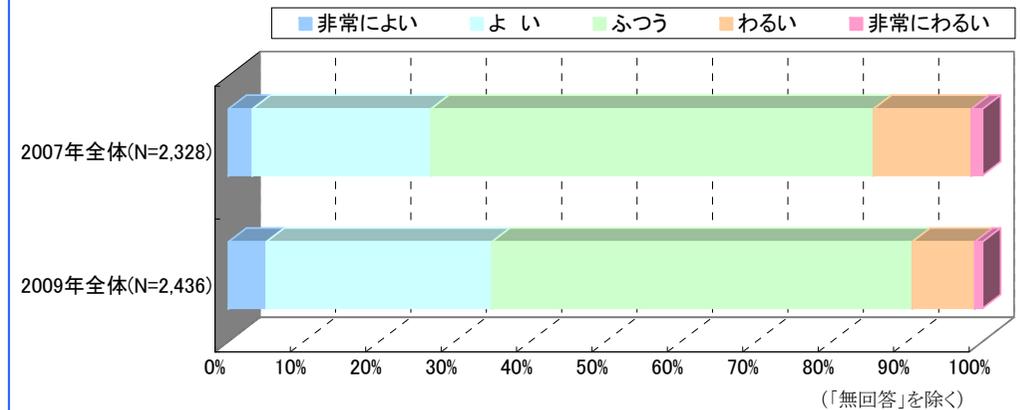
- ①総合研究棟の改修(全体の印象・使いやすさ、講義室、トイレ等)
- ②情報学習プラザの新設(全体の印象・使いやすさ、IT演習室、学生交流プラザ等)
- ③学生食堂の増築(全体の印象・使いやすさ、食堂、広場等)
- ④戸畑キャンパス全体(全体の印象・使いやすさ、校舎、福利施設、緑、広場等)
- ⑤今後、充実して欲しい施設

アンケート結果(抜粋)

戸畑キャンパスの全体について

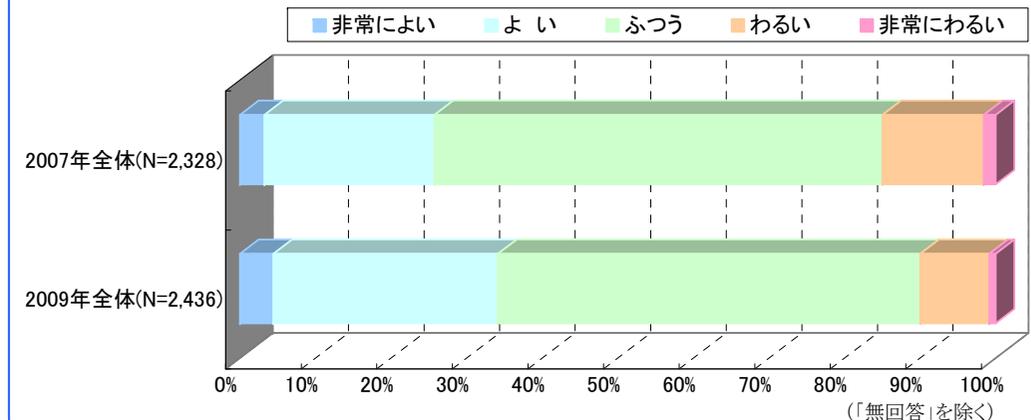
○全体の印象、使いやすさについて

- ・「非常によい」「良い」と答えた割合が増加



○校舎全般について

- ・「非常によい」「良い」と答えた割合が増加



アンケート概要

- 目的
 - ・今後の施設整備を行う上での計画・設計等の参考とする
- 対象: 対象施設を利用している学部生、大学院生、教職員
- 調査時期: 平成21年6月
- 回答者の状況
 - ・学部生、大学院生 348名 ・教職員等 16名

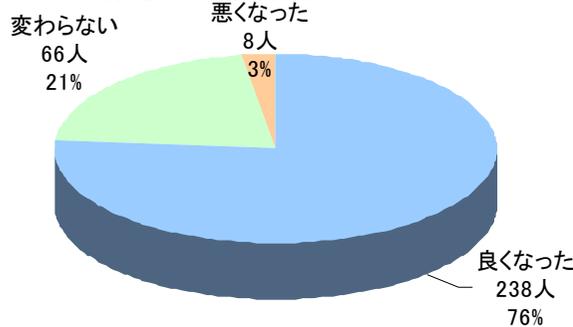
主なアンケート項目

- ①安全・安心(耐震化、消防設備・避難設備等の改善等)
- ②居住環境(建物のデザイン、講義室・研究室の良くなった点等)
- ③共用スペース(学生ラウンジ、演習室等の確保、教育研究やコミュニケーションの向上等)
- ④その他(省エネ機器の使用等の環境対策、バリアフリー等)
- ⑤学内の施設・環境

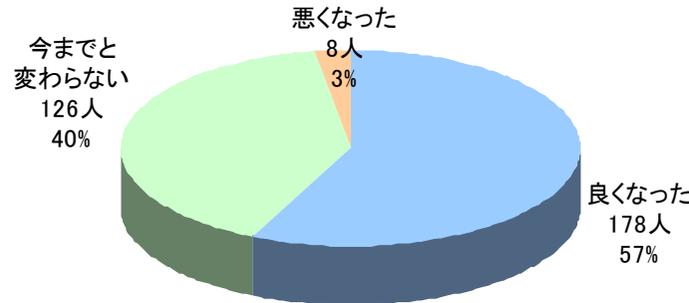
アンケート結果(抜粋)

居住環境

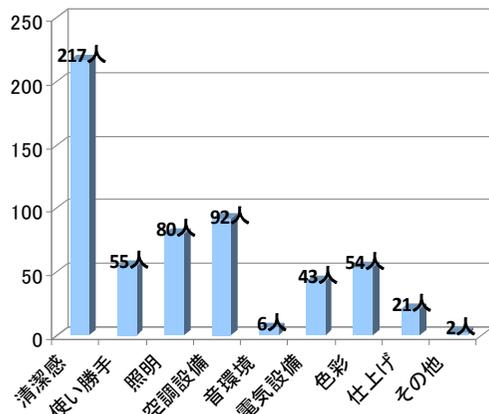
【改修後の講義室について】



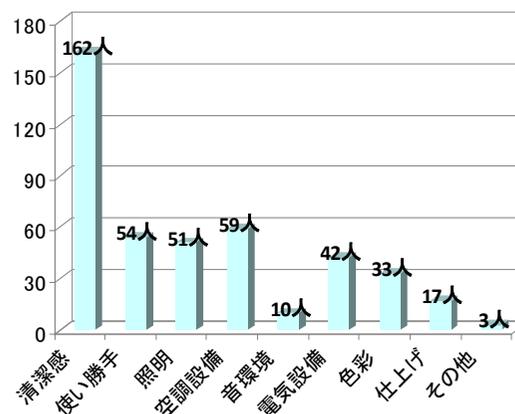
【改修後の研究室・実習室等について】



【講義室で良くなった点】

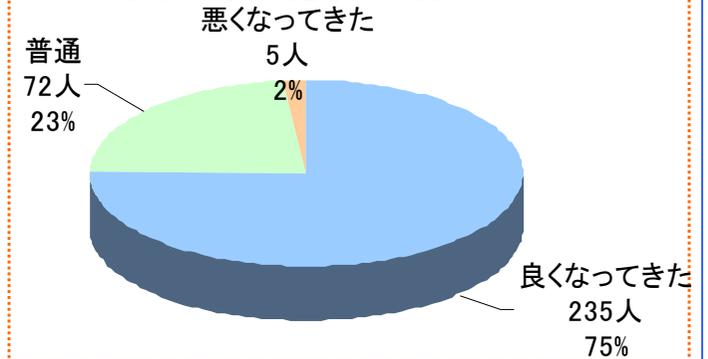


【研究室・実習室等で良くなった点】

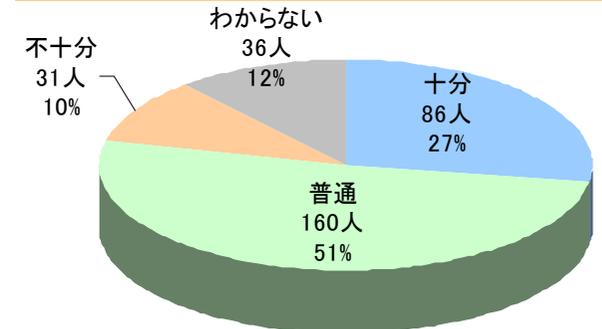


学内の施設・環境の整備

【近年の学内施設・環境について】



○その他(バリアフリー対策について)



アンケート概要

- 目的
 - ・改修後の施設の状況を把握し、今後の施設整備の質の向上を図る
- 対象者: 学生、教職員
- 調査時期: 平成21年12月
- 回答者の状況
 - ・学部生、大学院生 30名 ・教職員 17名

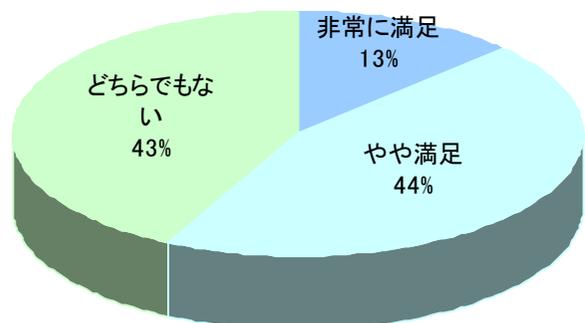
主なアンケート項目

- ①建物の印象(他の建物との調和、室内の印象)
- ②安全性(防火・地震等の安全性、防犯対策等)
- ③機能性(教員と学生、学生同士のコミュニケーション)
- ④使いやすさ(出入口、廊下の広さ、フロア構成、学生スペース等)
- ⑤パソコン等の使用環境(電源コンセント、情報コンセント)
- ⑥快適性(室内の照明、空調、採光、色彩、清潔さ)
- ⑦その他(案内表示、洗面所、廊下・収納スペース)

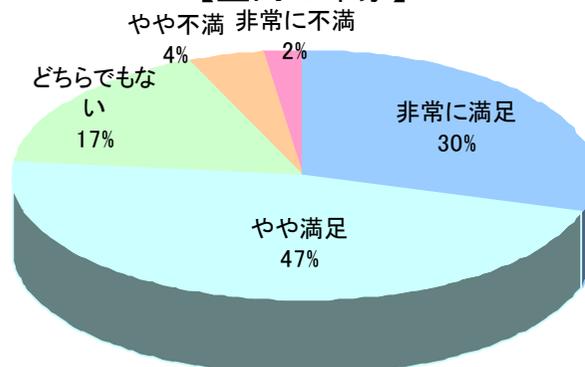
アンケート結果(抜粋)

建物の印象

【他の建物との調和】

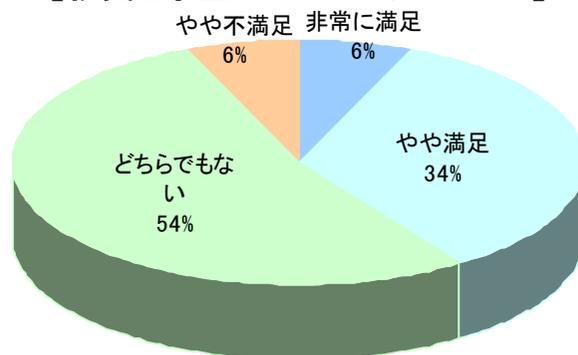


【室内の印象】

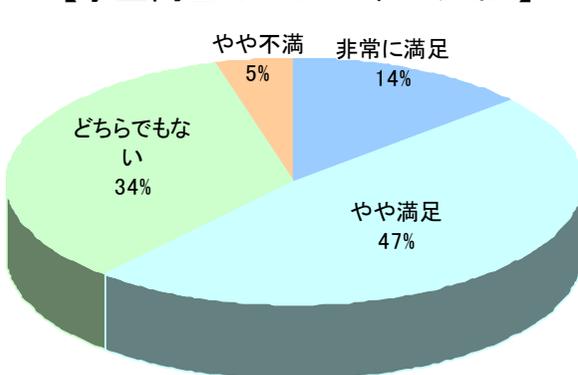


機能性

【教員と学生のコミュニケーション】

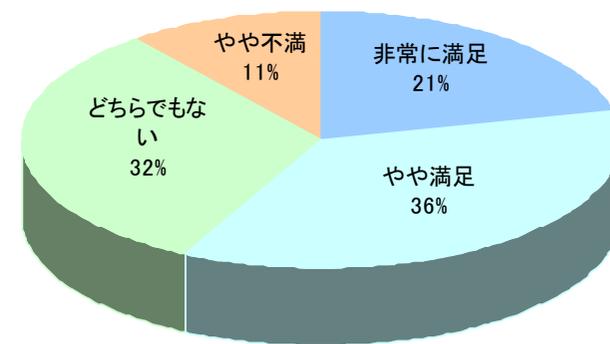


【学生同士のコミュニケーション】



使いやすさ

【分野別のレイアウト(フロア構成)】



【実験スペースの使いやすさ】

